

山口県立下関北高等学校
令和3年度第1回学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和3年6月22日（火） 午後5時30分から午後7時30分まで

2 場 所 山口県立下関北高等学校 会議室

3 参加者 22名
学校運営協議会委員 15名（校長を除く）
学校関係者 7名（校長、教頭、事務長、教諭4名）

4 内 容

(1) 校長挨拶

- 4月より赴任した和泉屋です。本日は御多用のところ御参加ありがとうございます。委員任命書の確認をお願いします。
- 3月には下関北高校第1期生を送り、4月には1年生を迎え全校生徒191名で出発しています。学校では、コロナウイルス感染症対策を徹底して行っており、県総体は行われ、夏の野球大会も実施の方向です。
- コミュニティ・スクール（CS）4年目となり、地域と連携・協働する教育活動や校種間連携について引き続きよろしくをお願いします。また、3年目となる「地域探究」の授業でも地域の方々の御協力に感謝しています。
- 下関北部地域唯一の高校であり、小中学校、地域間の連携を進めていきたいと考えています。そのためにも大事な一つの会議と考えています。お力添えをお願いしたいと思っております。

(2) 山口県立下関北高等学校学校運営協議会について

- ・学校運営協議会の構成や役割等について、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」「学校運営協議会の設置等に関する規則、学校運営協議会の運営に関する要綱（山口県教育委員会）」「山口県立下関北高等学校学校運営協議会の運営に関する会則」をもとに事務局から説明。
- ・組織・委員の項目の「委員以外の者の会議への出席」のところについては、第2回目の協議会には生徒の出席を予定している。
- ・学校運営協議会の活動状況は、県教委に報告するとともに地域の住民・保護者などに情報提供するため、この協議会での御意見については概要をHPにて公開予定である。
- ・なお、『地域とともにある学校』については、漫画で分かりやすく説明してあるので御覧いただきたい。

(3) 委員自己紹介

- ・今年度最初の協議会であり、新たに委員になられた方もおられるので、自己紹介をしていた

だき、その中で、これまでの本校との関わりや、学校に期待すること、それぞれの立場から見た学校の課題等について意見をいただいた。

(4) 会長・副会長選出

- ・立候補者及び推薦がなかったため、事務局から会長に白岡勝典氏、副会長に安富 浩氏を推薦し、全会一致で選任。

(5) 報告

- ・「学校運営方針、学校評価書」「地域と連携・協働した活動 令和2年度の記録」「学校生活の様子（令和3年3月～6月）」「地域と連携し・協働した取組 実施計画書（令和3年度）」について、資料及びパワーポイントにより校長が説明。

質問・意見

- ・「品行方正」というチャレンジ目標は生徒が決めているということだが、そもそも品行方正な生徒達だと思っているが、あえて目標にするということは……。先生方のお考えを聞いてみたい。

学校側

- ・再編統合されて以来、2校の良いところを引き継ごうという意志ではないか。
- ・行動面だけでなく心についてもまっすぐに、日々心清かに過ごそうという意味もある。
- ・令和3年度実施計画を賛成多数により協議会として承認。
- ・綱紀保持に係る研修等の実施計画書を示しているので合わせて御覧いただきたい。

(6) 協議

- ・今年度の『熟議』について、CS活動推進員から論点を整理して説明。
令和2年1月に中高の生徒会で行う予定だったが、コロナ禍で中止になった。今年度は是非実施したい。
- ・委員がそれぞれの立場から意見交換。

【委員からの主な意見】

- それぞれの立場から本音を出し合って、率直な意見を出せる場づくりが必要ではないか。
- 様々な職種の方がおられるので生徒のアイデアを応援したい。
- 地域の方が交流できる場を設けたい。青年部も協力したい。通学路でのマナーがよくない。
(横断歩道を歩かない、スマホを見て挨拶をしないなど)と聞いているので気になる。
- コミスクには地域貢献と地域連携が必要である。地域連携において、皆それぞれの立場で協力していきましょう。
- 生徒たちは真剣に考えていると思う。大人がどうにかできることがあれば協力したい。
- 空き家ゲストハウスでは生徒たちが協力してくれた。北高PR動画はとても良い取り組みだと思う。若い人たちには、自分にとって豊かな人生とは何か、真剣に考える力を身に付けてほしいと思っている。私も「品行方正」というチャレンジ目標には違和感を覚えた。

- 『熟議』これは素晴らしい活動だ。ぜひ行ってほしい。北高にはチャレンジする気合を示してほしい。ICTを活用した教育ができる時代なので、質の高い授業を全国どこでも受けることができる。山口でも可能なことがあるのではないかな。
- 地域貢献を一生懸命行っている姿を見た。地域の方は知っているのだろうか。小・中学生会や熟議の中に地域の方が入ることで、直に見ることで支援の輪が広がるのではないかな。
- 中・高生地元の魅力を再発見するきっかけ作りになってよいと思うが将来豊北町に住む人がどれだけいるだろうか。中・高生が実践するには壁になるのは教員だ。学校という枠をかぶせた中でやるというのではなく、地域の子どもとして集うことも考えられるのではないかな。子どもたちがここに残るかどうかは疑問だが、地域の子どもを地域の人たちが一丸となってみていくのがよい。
- 学校運営協議会はもう何年にもなる。小・中が行っているボランティアなどに高校生も一緒に参加できないかな。
- 自分たちが企画して地域から褒められるとうれしいので、熟議をやることには意味がある。
- ぜひ小学校（6年生）も参加したい。何をどうやるかの具体策を考えるのが面白いのではないだろうか。また、さらにその先具体的にどのようにやるのか、小・中・高で役割分担をしつつ地域の方が助けていくというのがよい。
- この地域に残らない人、他の地域を選んだ人、他の高校を選んだ人の意見をしっかり聞くことにより地域の弱みが見えてくるのではないかな。
- なるべく多くの人に聞いてもらいたい。何ができるのか考えるために熟議を行っていきたい。いつがよいか時期も話し合いたい。3学期までには何とか実施したい。子どもたちはいざ外に出るだろうが、帰って来れる場所を作ってやりたい。
- いろいろな意見をいただきありがたい。高校では他地区から通学する生徒も多い。地域のことだけでもいけないし、学校が閉じていてもいけない。生徒たちが地域の課題解決に向けて考えることを、地域のためだけでなく、本校生徒の成長につながるようにやっていくことが重要だと考えている。現状を変えることがコミスクの活動なのかもしれない。ICT活用、ふれあいなどしながら知恵をいただきたいと思っている。
- 今後とも、学校にもこの場で出された意見を一つでも二つでも吸い上げて取り組んでいただきたい。

(7) 閉会

- ・次回の学校運営協議会の連絡